

これからの教育・学びを考えるために

—議論の叩き台として—

牧野 篤

1

センス・オブ・ワンダー (不思議に思う力・好奇心)

レイチェル・カーソン

2

センス・オブ・ワンダー

生物学者レイチェル・カーソン

『沈黙の春』(1962年)

農業汚染の恐ろしさを説き、自然環境を破壊する人間に対して、未来の希望を託すものとして子どもたちの「びっくりする力(不思議に思う力)」、センス・オブ・ワンダー(sense of wonder)の重要性とさらに共感的な他者の必要性を訴えた。1964年に癌で亡くなった彼女の訴えは、その後、友人たちによって遺作『センス・オブ・ワンダー』としてまとめられている。

3

一人も取り残さない

孤立させない

4

1. 社会背景

5

人生100年時代の到来

今年中学校1年生の予測平均寿命=107歳

日本人の平均寿命=男性：81歳 女性：87歳
死亡最頻値年齢(一番たくさん亡くなる年齢)
=男性：87歳 女性：93歳

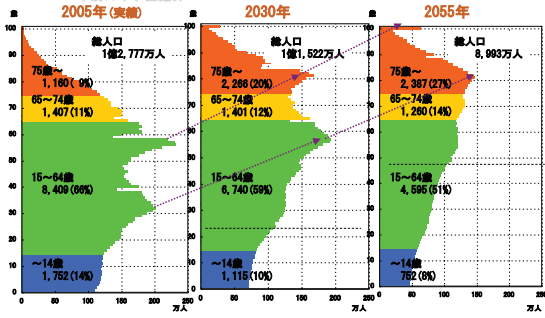
健康寿命=世界で最も長い

6

少子高齢化・人口減少の急激な進展

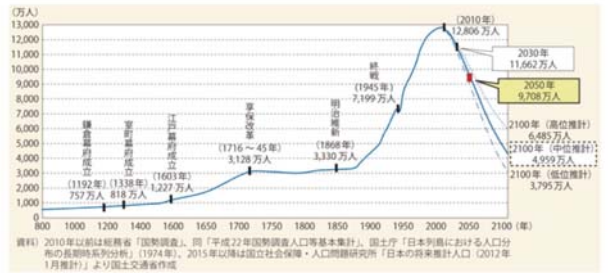
高齢者人口の高齢化

—平成18年中位推計—



注: 2005年は国勢調査結果。総人口には年齢不詳人口を含むため、年齢階級別人口の合計と一致しない。

人口の長期変動：急激な増加と急激な減少



資料: 2010年以前は総務省「国勢調査」、同「平成22年国勢調査人口推基本集計」、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」(1974年)、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(2012年1月推計)より国土交通省作成

日本人の平均寿命 (1891年～2016年)

100年前の2倍



<http://www.garbagenews.net/archives/1940398.html>

1000人あたり乳児死亡率の変化 (1899年～2014年)

パーセントにすると最高18.9%
⇨最低0.19%
100年前の100分の1

日本は世界で一番乳児死亡率が低い国の一つ



<http://www.garbagenews.net/archives/1890642.html>

少子高齢人口減少社会から
人生100年社会へ

高齢者への対応から
子どもたちを主役に
持続可能な社会をつくる

↓
誰も取り残さない社会

21世紀型スキル

(アメリカの)小学校入学生の65パーセントは、
大学卒業後、今ない仕事に就いている。
(アメリカ・デューク大学キャシー・デビッドソン)

現在の仕事は、2030年に50パーセント
が自動化され、消える。
(オックスフォード大学)

だから、すべての子どもたちに、
豊かな「学び」の機会を保障すべき

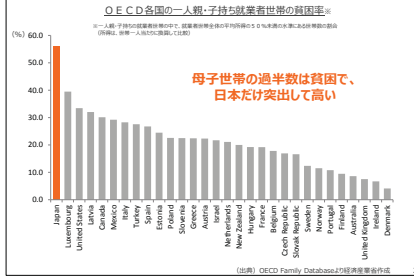
- ・思考の方法—創造性、批判的思考、問題解決、意志決定と学習
- ・仕事の方法—コミュニケーションと協働
- ・仕事の道具—情報通信技術 (ICT) と情報リテラシー
- ・世界で暮らすための技能—市民性、生活と職業、個人的および社会的責任

AI・生体認証技術
IoT
MaaS
オンライン
新たな生活様式とそのための規範
+
人の存在のあり方が問われる

13

子どもの貧困

日本の母子世帯の貧困率は世界でも突出して高い



http://www.meti.go.jp/committee/summary/eic0009/pdf/020_02_00.pdf

子どもの
相対的貧困率: 17%
ひとり親家庭: 57%
「子ども食堂」
3500カ所

14

認知症高齢者数:
2012年に462万人
高齢者に占める割合15パーセント
予測では
2025年に730万人、20.6パーセント
2060年には1154万人、34.3パーセント
総人口の13パーセントを占める

厚生労働省: オレンジプランの予測
MUFG「認知症の現状と将来推計」
[https://www.tr.mufg.jp/shisan/mamori/dementia/\(2019年9月9日閲覧\)](https://www.tr.mufg.jp/shisan/mamori/dementia/(2019年9月9日閲覧))

15

「生活」:
公的生活(通勤・労働)と私的生活
↓
生活の中に労働をどう位置づけるか
通勤や通学で時間と空間を分けてきた
出かけた先の「枠組み」で自分を律する
みんな同じように扱われる
自分で自分の生活を律する必要

16

2. 価値観を変える必要

みんな同じだから、同じように扱われる
⇨平等だとされてきた
だから、比べられる⇨序列化=量的還元

学校は、子どもたちを「家庭の事情」から切り離して
同じ子どもとして、平等・画一に扱う
学校の成績で社会の「位置づけ」が与えられる

17

18

「平等」を変える

みんなちがっているから、比べられない
だから、平等
⇨多様化・多元化

学校も一人ひとりの違いを認めあい、
比較・競争ではなくて、協働して、創造する場へ

評価をしない
承認する 認めあうことで「居場所」がある

19

3. 「あいだ」こそが重要

20

「ことば」がものをいう

「ことば」が社会に信頼をつくる
「ことば」が相互肯定感を生み出す
「ことば」が自分を社会に位置づける

「ことば」が〈ちいさな社会〉の基盤となる
「ことば」が生きる力を生み出す

「ことば」は「あいだ」から生まれ
「ことば」は「あいだ」から「わたし」を生み出す

21

生きる力をつけるためには、
学び続ける力が必要
そのためには「ことば」が必要
そして「対話」することで
自分が生まれてくる

22

- ⇨同じだから平等ではなく、
異なるから平等な（比較しない）社会へ
- ⇨比較優位ではなく、絶対的な価値の対話
- ⇨配慮と想像による対話へ
- ⇨対話による創造へ
- ⇨垂直序列化から水平多様化へ

23

無数の〈ちいさな社会〉が
運動し続け、
干渉しあい、
価値を生み出し続ける

あらゆる人々が価値創造の主役となる

24

「あいだ」から生まれる

25

「あいだ」の存在としての〈わたし〉と
「あいだ」としての〈わたしたち〉

26

「間（はざま）」を埋める、
「間（あいだ）」をつくりだす、
「間（あいだ）」から生み出す

27

- *名前・機能から解放される
- *新しい意味づけが可能となる
 - ⇨新しい価値づけが可能となる
 - ⇨新しい機能の創造が可能となる
- *自分自身が解放される
 - ⇨新しい自分を発見する
 - ⇨新しい自分の価値・意味をつくりだす

28

4. つながりを抑圧にしない

29

つながり
コミュニケーション
絆
を求める気持ちの背後

孤立
関係の欠如
足りなさを埋め合う
（「はざま」を埋める）

30

当事者研究

**トラウマ
精神分析**

暇と退屈が怖い

非行の原因：暇と退屈

31

**暇と退屈を埋めるために
非行に走り
トラウマが回帰する**

⇨「はざま」を埋めないといられない

32

孤立と暇・退屈

傷・苦痛につながる

⇨「中毒」「快楽」によって埋め合わせる
⇨依存症・神経症の社会へ

33

傷・苦痛から癒やし・希望へ

相互に受容しあう関係

⇨トラウマが回帰しない
⇨中毒・快楽に溺れない

「はざま」を「あいだ」に組み換える

34

**共感し、価値を分有する「あいだ」
をつくりだす人と人との関係が重要**

⇨「ことば」によって創造しあう関係

**孤立しない
内発的動機づけ**

35

「学び」の社会へ

⇨誰でもが価値を創造し続ける社会

36

相手への想像力と配慮

「慮る力」と「対話」によって
新しい価値をつくりだす力

37

5. 評価ではなく認めあいへ

38

評価を変えよう・やめよう

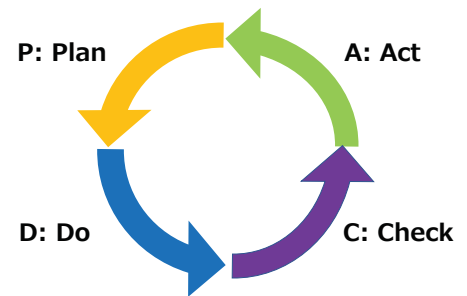
PDCAは地域社会や人の活動を壊してしまう

エビデンス・ベースの事業評価も同様

医療モデル

工業製品の歩留まりの改善のための手法

39



40

PDCAは評価・数量化ベースの手法

単一の目標設定が可能な計画に有効

これをまちづくりや社会教育・生涯学習に適用すると

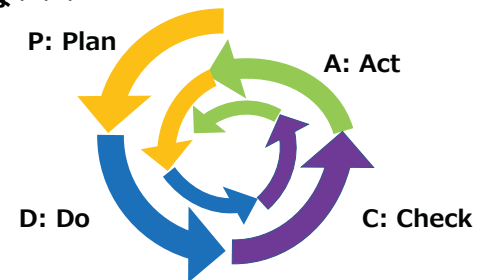
できることしか計画しなくなる

どんどん小さくなる

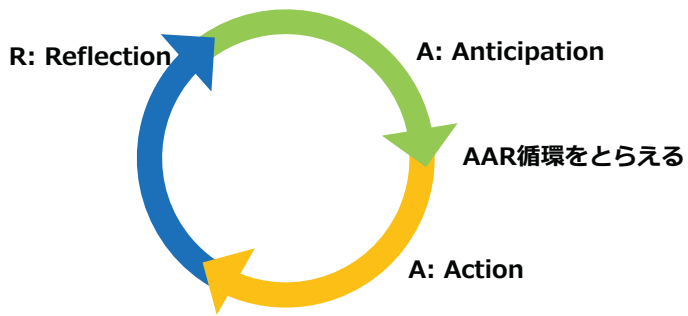
閉鎖系の構造

41

実際は・・・



42



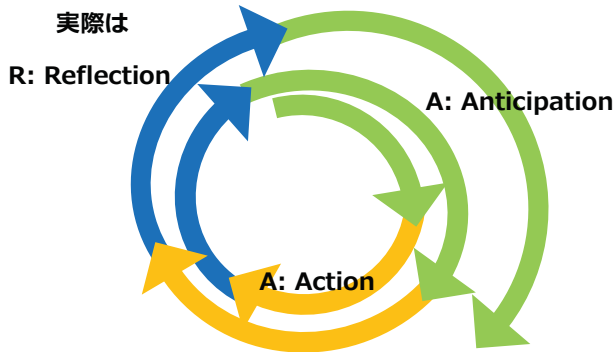
43

Anticipation : 予期する・予測する
 ⇨何か「楽しいこと・嬉しいこと」
 を考えてウキウキする

Action : やってみる

Reflection : 振り返る
 ⇨評価しない
 振り返って、さらにAnticipation
 どんどん多様になる

44



45

「楽しさ」「愉しさ」に駆動される
 試行錯誤
 開放系の構造

46

この開放系の試行錯誤のプロセスそのものが「学び」
 「楽しさ」「愉しさ」に駆動される

47

学ばないではいられない社会へ
 生涯学習（学び続ける）社会へ

48

6. 新学習指導要領の枠組み

49

新しい学習指導要領(2020年4月から)

体験と言語

質も量も(学校では終わらない)

言語能力を高めつつ、認知能力も非認知能力も

50

社会に開かれた教育課程
(2015年8月中教審教育課程企画特別部会)

51

コミュニティ・スクール
2015年中教審答申

* アクティブラーニング
(教員資質向上答申)

* チーム学校
(チーム学校答申)

* 地域学校協働活動・本部
(地域学校協働答申)

52

STEM から STEAM へ
Art (Liberal Arts) が重要

コミュニティ・スクール

53

100年学び続けるための基礎的な力を学校で養う
就学前から後期中等まで15年間一貫したカリキュラム
社会との連携・協働ベース

54

「学び」を発明し続ける

知識を自分だけのものにしない
探究して、発見する喜びや驚き
仲間と一緒にあって、発見し、創造するうれしさ
それに駆動される「学び」

自分を仲間と一緒に作りつづけるうれしさに満ちた
開放系の、やめられなくなる、運動

55

その基盤は、「ことば」と「体験」
それらが生み出す「想像」と「信頼」

違っているからこそ、一緒になれる

56

**センス・オブ・ワンダー
(不思議に思う力・好奇心)**

レイチェル・カーソン

不思議に思うことが探究につながり
探究することで発見し
発見することで自分を見つける
相手がいるからこそ、自分があることに気づく
違っているからこそ、一緒にいられる

57